



拓魂 立志 誠実 校  
創造 進取 連帯 訓  
教 譽 鑑

# 二中だより

第40号

令和7年3月26日(水)発行

校長 谷口 実

## 卒業証書授与式

3月11日(火)、令和6年度第29回卒業証書授与式を行いました。とても感動的な卒業式でした。校長式辞の一部を掲載させていただきます。

皆さんは、私にとって、本校に赴任して最初の卒業生だけに感慨深く、卒業証書を渡す際に一人一人の姿を目の当たりにすると、この一年間の思いが脳裏に浮かびます。皆さんと出会ってから、あっという間の1年間でした。

4月、着任早々、新任式から驚かされました。背筋をピンと伸ばし、校歌を本気で歌っている皆さんの姿に感動しました。今日もきっと素敵な歌声を聴かせてくれるだろうと思っています。

全校朝会などの話を聞く際に、こちらに体を向けそして視線を向けてくれる皆さん、さわやかな笑顔で挨拶してくれる皆さん、「本当に素晴らしい3年生だなあ」と感心したことを鮮明に覚えています。

体育祭では、「本番は練習のように…」という言葉がありますが、赤組、青組の団長を中心に練習の時から本気で取り組んでいる姿、一人一人が仲間と協力して頑張っている姿が強く印象に残っています。

部活動や地域のクラブでの活動では、向上心にあふれ熱心に取り組んでいる姿が印象的であり、中体連をはじめ各種大会において、これまで努力し続けてきた成果を十二分に出し切ったのではないかと思います。

また、二中祭では、執行部の開催宣言から始まり、ステージ発表、郷土学習の発表、倉内・平沼神楽の披露、吹奏楽部の演奏、各学級の合唱発表、学級展示、委員会展示など全校六十五人で創り上げた二中祭は本当に素晴らしいものでした。3年生を中心に一人一人が責任をもって取り組んだからこそ成功だと思っています。

常に学校を引っ張り続けてきてくれた3年生の皆さん、本当にありがとう。皆さんの背中を見てきた1・2年生が、しっかりと引き継いでくれると信じています。卒業後もぜひ二中を見守っててください。

皆さんに、私から一つだけ伝えたいことがあります。それは、「過去の出来事は変えられないが、過去の想いは変えられる」ということです。

当然、過去に起こった出来事・事実を変えることはできません。しかし、過去に起こった出来事に対する想いは、変えることができます。

「あんなことさえなければ・・・」「あんなことがあったばかりに・・・」と悲観的に思い続けていくのか。それとも、「この失敗があったからこそ、今の自分がいる」「あの大変な経験で、自分は強くなった」と、前向きにとらえ、これからの糧とするかは、未来も違ってきます。将来、皆さんにかかわる出来事、全てに言えるでしょう。過去の大変だった想いを変えられる人が、未来も変えられる人です。

今後の卒業生の皆さんの活躍と発展を心から期待しています。



## 「生徒一人一人の笑顔が輝く学校」を目指して

3月26日、令和6年度の修了式を行いました。私からは来年度こんな学校にしてほしいという願いを話しました。それは「生徒一人一人の笑顔が輝く学校」を目指してほしいということです。リーダーを中心として、全員がいつも笑顔で生活できる居心地のいい学校にしていきたいと思います！

## 1年間ありがとうございました！

保護者の皆様、地域の方々、これまでの教育活動に際し、ご理解、ご協力いただき本当にありがとうございました。子供たちの活動や活躍の場面を紹介しようとする二中だよりを発行してきました。来年度も引き続きがんばって発行したいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。